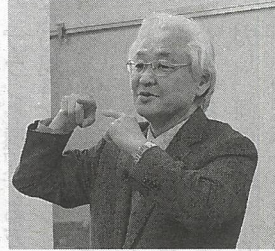


基本から事例まで紹介

高温乾燥の課題も指摘

岡山県木材連 乾燥技術研修会

岡山県木材組合連合会(田中信用会長)が主催する人工乾燥材生産技術研修会が1月23日、岡山市内で開かれ、製材所や製品市場、建築士らが聴講した。



岡山県木材連の田中信用会長が、乾燥技術研修会にて講話している。

「木材乾燥に必要とされる基本技術を改めて振り返る」と題した講演で講師を務めた技術士の河崎弥生氏は、木材乾燥の位置づけや基本技術の、乾燥時に発生する問題と技術のかかわり、乾燥や装置に対する思いなどを述べた。

主催で開催された「今さらだけど」木材乾燥の「基本」と題したセミナーに期待する内容として、「広葉樹の乾燥」「木質の乾燥」「木材乾燥の基本的な技術」「実務者向けの品質やスケジュール管理に関すること」一般消費者向けに木材乾燥の必要性を説く内容等があったという。また、

製材所が大半と思われる聴講者が、実際には建築士など多岐にわたっていた。講義では木材乾燥の意義などの概念に始まり、「乾燥の命」(河崎氏)と切り切る積層み作業や乾燥庫内の清掃、含水率計の当て方など作業の基本の重要性を説き、製品に合わせた乾燥スケジュールのあり方や様々な乾燥法等を紹介した。

「岡山県木材連の田中信用会長が、乾燥技術研修会にて講話している。」

地震機に壁柱に10件の問い合わせ そのうち3件が施工に向け始動

大阪府木材連合会

大阪府木材連合会(津田潮会長)は1月、京都大学防災研究所(京都府宇治市、橋本)で2008年に開発した「壁柱」に関する、



木材連合会の壁にサンプリング施工の「壁柱」

10件の問い合わせを受け、1月1日に発生した能登半島地震による被害状況を調べて、防炎の強化に目を向けた動きだ。現在、そのうちの3件が実際の契約に向けて動き出している。

壁柱は、部屋の4隅に耐力壁を合計8枚設置する工法だ。耐力壁には長さ2.7m×9mの杉材9本をボルトで固定する。壁柱は、部屋の4隅に耐力壁を合計8枚設置する工法だ。耐力壁には長さ2.7m×9mの杉材9本をボルトで固定する。

と、研究者として悔恨の念をにじませた。講義後の質疑で「JAS材の普及に関して、ASTOCKヤードでオーバーサイズの製品を在庫し、注文に応じて加工し出荷するのは可能か」との市場関係者の質問に、建築士が「許容応力度計算に強度を測ったノンJAS材がJAS相当で使える。そうしないと中小製材所は対応しづらい」と、県内での実践を紹介した。

研究会の講義内容は2月以降、ユーチューブ上で公開する予定。問い合わせは、富山県、山口県、静岡県、千葉県、大阪府と広範囲にわたる。富山県と山口県は壁柱に関する質問と資料請求、静岡県は工務店の「壁柱を施工したい」という相談だった。大阪府も6件のうち4件は質問と資料請求だったが、2件は具体的に施工を検討している問い合わせだ。施工契約会社2社(伊藤藤木店、港ハウスビルダー)が現場調査を始めた。千葉県も1件も同様に、同1社(ハイブリッドホーム)が対応することになった。

壁柱は、部屋の4隅に耐力壁を合計8枚設置する工法だ。耐力壁には長さ2.7m×9mの杉材9本をボルトで固定する。壁柱は、部屋の4隅に耐力壁を合計8枚設置する工法だ。耐力壁には長さ2.7m×9mの杉材9本をボルトで固定する。

トラスクリューなどで連結させたものを使用する。杉材同士を完全に密着させないため、「柳に風」の原理で水平方向に掛かる力が逃げていく仕組みだ。実際、天井に4つの荷重を加えて阪神・淡路大震災の1.2倍の振動で5回揺らす実験では、部屋の倒壊がなく、性能は折り紙付きだ。その後、壁倍率を4.1倍にした「タイプ4」なども開発した。

壁柱は、これまで累計63件採用された。現在の施工契約会社は29社。同連合会の担当者は「今回の地震を機に、住まいの耐震性を再度確認してもらいたい。耐震改修工事は大掛かりになるため費用は数百万円と高額になる。しかし、壁柱は1部屋のみシェルターの施工できるので工事期間は短く、費用も比較的安く済む。せめて

1部屋だけでも壁柱で補強するのはどうか、検討してもらえたらありがたい」と話した。

フルタニラ「アテノオト」や地域材を使ったビルやアロマウォーター、チリ最南端で生育しているチェリー系の広葉樹「レンガウッド」など多様な木材製品を展示した。同ブースには、2023ミス日本みどりの大使で能登ヒバアンバサダーの上村さや香氏が来場。同ブースで能登ヒバのギターによる演奏とともに歌声を披露し、多くの来場者が足を止めた。また、ブースには石川県木材産業振興協会が実施している能登半島地震の災害義援金への募金箱が置かれ、上村氏も協力を呼びかけた。



歌声を披露した上村氏

会社 探訪

大栄木材(福島県東白川郡、大瀬良一社長)は関東近郊の松KD土台角の供給大手で、年間2万立方メートル以上の丸太を消費する。2014年までの5年間で工場生産設備を増強し、生産拡大と全量KD化を実現。製品は「サイプレスV」の商品名でブランド化した。松は土台の需要が拡大傾向にある一方、森林資源も充実しつつあることから、引き続き土台を中心に生産拡大を目指していく。

同社は1962年に材、その後は通し柱などの役物製材を手掛ける。もともとは樟の役物製材を手掛ける

松KD土台角でブランド確立

大栄木材(福島)

一段の増産投資見据える

イン丸鋸との2ライン体制で生産を拡大している。乾燥機はKD化の導入は03年と早かったが、10年以降、乾燥機4台(20立方メートル、40立方メートル)の増設、バイオマスボイラー(1.5トン/時)、Vカット・モルター・グレーディングラインの新規導入、リングパーカー、丸鋸ツインソーの更新、ラインの組み替えと集中的に投資し、生産設備を一新させた。昨年はツインバンドソーを改造したほか、製品の自動段積み機を導入し、省力化を図っている。輸送



松KD土台角「サイプレスV」(円内は大瀬社長)

丸太の仕入れは6割が素材生産業者からの直接購入で、原木市場は地元2カ所、茨城1カ所を活用している。販売先はプレカット工場向けが6割、製品市場向けが4割。地域別では関東を中心に、東北、長野まで供給している。輸送

後半ごろに植栽した人工林が10年後には主伐期を迎え、今後供給は拡大してくとみている。大瀬貴弘専務は「柱は集成材化が進んでいるが、土台はそこまで進んでおらず、松KD土台、大引は今後も販路を拡大できるとみている。当面の課題は改造で生産性を高めてきたツインバンドソーの更新で、更新のタイミングで一段の生産拡大を図りたい」と話す。

また、情報欄では岐阜県の森林資源の概要や、ブランド材の東濃松・長良杉、ぎふ性能表示材認証センター、東濃松品質管理センターなどについて解説している。同カタログの問い合わせは、岐阜県林政部県産材流通課(電話058-272-8487)まで。

「東北は寒冷地で、冬場に稼働率が低下す

国産材原 いる。特に広葉樹は、木は1月も 岩手、青森に加え、

は目先の仕事で、低調な稼働続く

低調な稼働続く

低調な稼働続く

低調な稼働続く